

# 研究課題事後評価書

(分科会で評価委員が記入)

提案課・室名 問合せ先	課・室名：地理地殻活動研究センター 地殻変動研究室  代表担当者：地殻変動研究室主任研究官 矢来 博司
研究課題名	東南海・南海地震域の地殻変動特性に関する研究
予 算	特別研究 54,317千円 (3年間の総額)
研究期間	平成15年4月～平成18年3月 (3年間)
分科会委員	○笠原 稔、里村幹夫、山岡耕春
① 成果の概要	大地震震源域での地殻変動特性をより空間分解能を高く、かつ高精度に推定するために、1) SAR データの連続的解析手法、2) SAR データと GPS データとの統合処理による精度の向上、3) 東海地域のスロースリップに対して GPS と水準の統合処理による時系列解析の新手法の開発、が進み、今後、ALOS データの入手と GPS、水準等のデータとの統合処理の道筋が整えられた。
② 当初目標の達成度	ALOS のデータは入手できなかったために、対象地域での現実的な解析は進められなかったが、いくつかの手法を組み合わせ、福岡県西方沖地震や、東海のスロースリップの見直し等から、それらの手法の検証を行って、完成度を確かめており、今後の応用には十分可能であることを示しており、当初目標に関しては、ほぼ満足のいく達成度であるといえる。
③ 成果公表状況	研究報告書 3件 発表論文 7件 (内査読付き5件, 投稿中1件) 口頭発表 9件 は、十分である。
④ 成果活用の見込み	SAR に関しては、ALOS「だいち」の運用が始まり、今回得られた連続的解析手法の応用によって、単に南海・東南海地域にとどまらず、多くの地域で(海外も含めて)迅速かつ広域な地殻変動検出が進むものと思われる。同時に、当該地域の SAR/GPS/水準の統合的データ処理を定常レベルまで確立して、現在進行形の地殻変動を明らかにすることに活用することを期待する。
⑤ 達成度の分析	SAR データの GPS データによる高精度化は、今後もより高度化を進める必要がある技術で、今回の達成度が最終ゴールではないことを指摘しておく。
⑥ 残された課題と新たな研究開発の方向	それぞれの手法に関しては、一定の成果は認められるが、SAR データの現実的な連続的供給があった場合にどうなるか、今後のフォローが必要である。また、異なる連続データを、ルーチンレベルで統合するためのシステム作りも重要な方向ではないかと考えられる。その結果、本当の意味で、列島規模での地殻変動特性の広空間分解能と高時間分解能な結果が得られるものと期待される。
⑦ その他、課題内容に応じ必要な事項	特になし
総合評価	①. 十分な成果 2. 一部不満足 3. 部分的成果 4. 失敗  「だいち」の打ち上げの遅延により、当初目標の修正を余儀なくされつつも、そのときのための準備が着実に進められた点は、大いに評価できる。